

令和5年度 広島平和記念式典 小中学生派遣事業 感想文



広島平和記念公園（広島市）原爆ドーム前にて

磐田市

《目次》

広島派遣を通して	磐田第一中学校	森田	唯斗…1
衝撃を受けた二日間	城山中学校	杉浦	亜門…1
同じ過ちを繰り返さないために	向陽中学校	野口	真裕…2
「平和」と「幸せ」	神明中学校	三浦	凜…3
責任	南部中学校	大場	芽育…3
実際にあった出来事	福田中学校	松島	早希…4
繋げてゆく想い	竜洋中学校	石田	絢愛…5
二度と起さぬために	豊田中学校	山縣	仁…5
私達はどう生きるか	豊田南中学校	渡邊	菜々子…6
ヒロシマ原爆く核兵器廃絶にむけて	豊岡中学校	池島	那奈…7
広島の記事	磐田東中学校	佐藤	粹姫…7
広島平和記念式典に参加して	磐田北小学校	小泉	結志…8
「平和」ってどんなこと	磐田中部小学校	荒木	稀識…9
安田女子高等学校く被爆桜を大切に	磐田西小学校	谷本	優心…9
原ばく資料館をおとずれて	磐田南小学校	笠原	雅矢…10
平和が続くように	東部小学校	山田	颯稀…10
広島平和記念式典に参列して	大藤小学校	堀内	優月…11
ぼくが思う平和	向笠小学校	山下	遙也…12
ぼくが広島で感じたこと、知ったこと	長野小学校	山田	洋輔…12
広島に行つて感じたこと	岩田小学校	星野	釉耶…13

広島

広島に行き感じた事	田原小学校	木戸	孝優…14
わたしたちにできること	富士見小学校	村田	晴太朗…14
思い出の広島	福田小学校	山内	美宙…15
ヒロシマ	豊浜小学校	伊藤	紗奈…16
平和な世界を強く願つて	竜洋東小学校	清水	音花…16
「伝える」	竜洋西小学校	宮本	楓花…17
広島の名	竜洋北小学校	柳澤	采歩…18
広島原爆のおそろしさ	豊田南小学校	飯塚	優芽…18
核兵器のない世界へ	豊田北小学校	鈴木	愛梨…19
私が感じたこと	青城小学校	鈴木	瀬菜…20
広島派遣事業を通して私達にできる事	豊田東小学校	平野	心葉…20
	豊岡南小学校	杉原	湊歩…21
	豊岡北小学校	大場	麻央…22

(凡例)

- ・本書は令和五年度広島平和記念式典小中学生派遣事業の参加者の感想文をまとめたものです。
- ・誤字・脱字などを除き、原文のままで掲載しています。

広島派遣を通して

磐田第一中学校 森田 唯斗

私は今回の広島派遣事業を通して、平和についても一度考え直すことができました。広島へ行く前、私は平和について真剣に考えたことはありませんでした。行くだけ行ってみるか。といった気持ちで、少し面倒くさいといった気持ちもありました。しかし、いざ広島に行くと、そこにはたくさんの衝撃がありました。

初日、私たちは安田女子高等学校と広島平和記念公園に行きました。最初に訪れた安田女子高等学校は、自分にとって驚きの連続でした。安田女子高等学校では、生徒会の提案で、全国に原爆の恐ろしさや平和の尊さを知ってもらう活動をしていたそうです。私たちも安田女子高等学校のように、平和のために何かできることがあると思いました。

平和記念資料館では、様々な衝撃的な資料をたくさん見してきました。焼けただれた皮膚、燃え盛る広島、目に入った瞬間、原爆の恐ろしさが伝わってきました。罪のないたくさんの人々が犠牲になり、どれだけ恐ろしい出来事だったかがすぐに解りました。平和について考えさせられる一日でした。

二日目、私たちは平和記念式典に参列させていただきました。いろんな国から人が集まり、八月六日のような悲劇を二度と起こしてはいけないという思いが自分の中で強まりました。唯一の被爆国である日本が、この悲劇を世界へ伝えていく必要があると思いました。

広島から帰ってきた後は、自分の中で平和への考え方が変わっていました。私たちも、平和に向けて今できることを積極的に行動していこうと思います。世界平和を実現することは難しいことですが、いつかそんな世の中が訪れることを願います。

衝撃を受けた二日間

城山中学校 杉浦 亜門

僕は今まで、広島の前爆について、教科書で知っている程度で詳しくは知りませんでした。今回このような機会を頂く事ができ、今まで知らなかった事について多くのことを知ることが出来ました。安田女子高校では、被爆樹木や学校の歴史について学びました。被爆樹木とは、爆心地から約2キロメートル以内であり、原爆投下の前から生きていた樹木のことを示します。原爆後の、被爆樹木の本数は僅か百六十本しかなく、安田女子高校では、この貴重な被爆樹木の苗木を作り、全国各地に送る活動をしています。この活動を通して沢山の人と平和について語ることや、平和について考えるきっかけを作りたいと考えているそうです。このような話を聞き、平和に暮らす有難さを改めて知ることができました。原爆資料館では、被爆者の思いや、実際の衣服など、多くのものが展示されていました。展示をみて、当時の様子や原爆の恐ろ

しさを肌で感じることができ、戦争を起こしてはいけない理由や、第二次世界大戦が起こってしまった理由など詳しく知ることが出来ました。今回広島に行き、僕が一番心に残っていることは平和記念式典で、こども代表の言葉が一番心に残りました。その言葉は、「私たちにもできることがある」という言葉です。原爆投下から七十八年たった今でも、自分たちにできることを考え、広島の子供達は行動をしているという事に一番衝撃を受けました。今回このような機会を頂き、今まで自分の知らなかった事を多く学び考えることができました。今回学んだことを家族や友人、自分の学校などでしっかりと伝え、戦争を起こしてはいけない理由や、原爆の恐ろしさについて一人でも多くの人に知ってもらい、今の自分に何ができるのか、この戦争での出来事をどのようにして次の世代に繋いでいくのかを考えてもらえようになりたいです。

同じ過ちを繰り返さないために

向陽中学校 野口 真裕

僕はこの広島平和記念式典小中学生派遣事業に二日間参加し、他ではできない体験をしました。広島での二日間の予定は次のとおりでした。一日目は安田女子高等学校、平和記念公園でガイドの方のお話、そして原爆資料館の見学。その中でも特にガイドの方からのお話が特に印象に残っています。

ガイドの方は実際に父親を原爆で失い、父を探しに行った母親も強い放射線をあびて被爆してしまった、原爆によって人生が狂わされてしまった方でした。写真や絵、当時の新聞などを活用して丁寧に説明してくれました。「たった十秒でこの広島はふきとんだ。」この言葉が忘れられません。二日目は平和記念式典に参加しました。様々な国のえらい人が原爆について話す中、僕は中でも広島県知事の、

「私は核抑止論者に問いたい。全人類の命、場合によっては地球上の全ての生命に対し、責任を負えるのですか。」

この言葉が心に残りました。核兵器は人類が滅亡する可能性があります。だからこそこの国も核を持たない地球になっ

てほしいと思いました。

夏休みの終わり頃、僕は老人ホームのボランティアに行きました。その時にここ遠州での戦争について、お話を聞くことができました。空襲が激しくなると浜松の山奥に疎開した学校はケガした兵隊が大勢寝ていて、とても学べる環境ではなかった。そして日本が負けたと知らされた時、涙の一滴も出なかったと言っていました。戦争といえば原爆というイメージを持っている人もいるかもしれないがここ磐田でも被害が出ています。戦争を体験した人が少なくなる前に戦争について、もっと知ることが大切だと思います。それが何年たっても戦争を起こさないために必要なのではないのでしょうか。

「平和」と「幸せ」

神明中学校 三浦 凜

「原爆」という言葉は私にとつて、なじみのない言葉でした。「戦争」とは何なのか、経験したことのない私にとつて、明確に説明することはできませんでした。この二つのことについて学ぶ、知る、考えるという機会は学校の授業しかなく、なかなか沢山の知識をつけることはできていませんでした。しかし今回、広島平和記念式典に参加できるといふ貴重な経験をさせて頂くことができ、知識が増えました。そして、「戦争」「平和」に対する自分の考えを確立させることができました。広島を訪れる前後で具体的に何が変化したのかというと、「平和」は生まれるものではなく、自分でつくり出すことができるという考えを持つようになったことです。平和という言葉を聞くと、争いのない世界といった重たいイメージの印象を受けていました。もちろん、争いのない世界を実現すれば、世界中の人々が幸せな生活を送ることができますが、その前に自分の近くにある「平和」を見つけることが大切だと気がつきました。毎日美味しい食事が食べられる、友達と他愛もない会話ができる。これらはとても幸せなこと、平和な生活が送れている根拠となるものであると分かりました。また、原爆や戦争は過去の出来事ではなく、今にも関係している出来事であることを学びました。過去の悲惨なこととして片付けるのではなく、現在にも被害が残っていることを知り、二度と同じことをくり返さないために原爆や戦争につい

て後世に伝えていくことが、とても大切だと思いました。今回学んだこと、感じたことを周りの人に伝えることで、小さな幸せが沢山集まった平和な世界の実現を支えていきたいです。そして、今ある「当たり前」は「幸せ」なことで「平和」の象徴であることを忘れずに生活していきたいです。

責任

南部中学校 大場 芽育

「あなたは、今この瞬間も命を落としている無辜のウクライナ市民に対し、責任を負えるのですか。(中略) あなたは、万が一核抑止が破綻した場合、全人類の命に対し、責任を負えるのですか。」

これは広島平和記念式典での広島県知事の言葉だ。この言葉を聞いた僕は、今までの自身の考えに呆然とした。核兵器にただ考えもなく反対していた自分と比べ、核兵器の使用を肯定した先にある、悲惨な未来のことまで思慮した結果、信念をもって反対する知事の言葉は、平和記念式典に参加したすべての人、いや、世界中の人々の心に届き、伝わったと思いたい。広島島の痛みや苦しみを、時代を超えてつなげていかなくてはいけないのだ。

広島平和記念資料館で見た展示品も僕に大きな衝撃を与え

た。資料館の中で最も数が多かったのは、黒焦げになった人や、ひどい火傷を負った人の写真である。皆さんに少し考えてもらいたい。肉が焦げるのはどんなときだろうか。おそらくフライパン等、熱いもので長時間肉を熱さなければ、あまり焦げることはない。原爆の熱線により、地表の温度は三千〜四千度に達したという。その想像を絶する苦しみに僕の胸は痛んだ。

今回の平和学習を通じ、戦争の真の悲惨さ、核が未来にまで及ぼす影響、そして、自分の平和な世界を築くための選択の大切さを肌で感じる事ができた。広島を訪れたことで、原爆の恐ろしさや被爆者の苦しみを感じることができ、一生忘れられない経験となった。二度と戦争や原爆の過ちを繰り返さないためにも、犠牲になった人々のためにも、これからの未来を創っていく僕らが最善を尽くさなければいけないのだ。歴史から学び、多くの人々と思いを共有し、話し合っ問題を決していく。平和な世界を創るために、僕たちがまず行動していくのだ。

実際にあった出来事

福田中学校 松島 早希

私にとって、今まで、戦争や原爆投下は、「歴史の教科書やテレビなどで見たことがあるもの」でした。しかし、今回の

広島平和記念式典小中学生派遣事業を通して、それらが「知識としての歴史上の出来事」ではなく「実際にあった出来事」なのだと意識が変わりました。

例えば、私が使っている英語の教科書には、建物疎開中に原爆で亡くなった中学生、河本幸美くんが書いた日記の英語版を読んで和訳するページがあります。私は、教科書に載っている、八月五日までしかない日記を読んで和訳していたのですが、今回、広島平和記念資料館の「建物疎開中に原爆にあった中学生」のコーナーに、「河本幸美」があるのを見つけて、教科書の日記を書いた人間が実際にいたのだという実感を改めて持つことができました。

そして、ピースボランティアの方や遺族の方のお話を聴いたり、原爆ドームを見たりして、そこからも、原爆投下は実際にあったのだという実感が湧きました。広島平和記念資料館の展示では、原爆で亡くなった人の言葉や、その遺族の方の言葉が書いてあり、英語の教科書の「河本幸美くんの日記」を読んだときもそうでしたが、原爆で亡くなられた人一人一人に、あたりまえですが、それぞれの生活や思いがあったことを知りました。

また、吹き飛んだ大きな石や壊れかけた原爆ドームなどが残されていることから、「絶対に原爆投下を忘れない」という強い意志が伝わってきました。

今回、広島平和記念式典で私が見たり聴いたりしたことは、授業で習わないことばかりでした。歴史の教科書には載っていない一人一人の思いを知ることができ、原爆投下は、「実際

にあつた出来事」なのだと再確認できました。

繋げてゆく想い

竜洋中学校 石田 絢愛

私が今回、小中学生派遣団として参加させていただいた広島での活動で、強く衝撃を受けたものは広島平和記念資料館での見学です。資料館では、被爆者の黒く焦げ穴の多く開いた学生服や熱で溶けて形が崩れてしまったヘルメットなど、原爆によつて命を落としている人達の存在を表すものが展示されていました。さらに、放射線症による斑点が出ている兵士の写真を見ました。どれもが痛ましく、悲惨な光景ですが、その全てが今から七十八年前に落とされた、たった一発の爆弾から生み出された地獄なのだと改めて感じました。原爆が投下された直後、皮膚が溶ける程の熱線を浴びた人々が、水を求め川に飛び込む絵を見ました。川の中で何人もの人が血まみれで、もがき苦しんでいる瞬間を描いた絵でした。必死に泳いでいた人達も、翌日の朝に死体と化して浮いていたそう、その光景は正に生き地獄であつた、と聞き私は息を呑みました。

私は派遣活動を通して、平和へと向かう意識の強さが世界規模で広まっていることを実感することができました。平和記念式典のプログラムでは、日本語の表記だけではなく英語

での表記であつたことや、資料館や式典に多くの外国から来た人達の姿が見えたことなど、原爆や戦争そして平和への関心が世界中で強くなっていることを感じる機会が沢山ありました。私は広島で見て聞いて感じたことを学校や身の回りの人達へ伝えることで、過去を知り未来へ活かしていく為の知識や意欲を広めていきたいと思いました。二度と同じ過ちを繰り返すことがないように、自分の言葉で正しく伝えていこうと思います。

二度と起さぬために

豊田中学校 山縣 仁

「平和」とは何でしょうか。今の日本は平和なのでしょう。その答えを見つけることができた広島派遣。僕は広島へ行きたくさんのことを学びました。

原爆の子の像通称禎子さんの像。そこへ行き、まず感じたのは平和を願う人がとても多いということです。そこには数え切れないほどの千羽鶴があり、一羽一羽に平和への願いが込められていると思うと心を動かされました。そして、僕が一番心に残っているのは像の下に刻まれている「これは僕らの叫びです。これは私たちの祈りです。世界に平和を築くための」という言葉です。この言葉を読み、平和の尊さを改めて実感することができました。

次に印象に残っているのは、原爆供養塔の近くで聞いたボランティアの方の話です。原子爆弾が投下され広島にはおびただしい数の死体があつたそう。その死体を学校の校庭や公園などに埋めていたそうです。この話を聞いて、戦争の悲しさと二度としてはいけないという二つの気持ちが込み上がってきました。

そして平和記念資料館へ行き原子爆弾の悲惨さを痛感しました。放射線によつて頭髮が抜けてしまった兄弟、白血病によつて苦しんだ人々、人影の像。過去に広島でこんなに苦しんだ方々がいるのかと思うと、言葉を失ってしまいました。広島派遣を通し、様々なことを学びました。この経験を活かし、二度と戦争が起きたり、核兵器が使用されたりしないように自分にできることを考え、実行していきます。

私達はどう生きるか

豊田南中学校 渡邊 菜々子

去年の二月二十四日、ロシアがウクライナに侵攻した。戦争は嫌だという気持ちは当然あつたが、遠い国で起こっている出来事に、どこか他人事でいたのかもしれない。

そんななか派遣の話を頂いた。

ただ戦争が怖い、そう思っていた私は本当の原爆の恐ろしさをわかっていなかった。私は、原爆資料館で今まで感じた

ことのない衝撃を受けた。これが戦争の先にあるもの。空からは火の粉が降り注ぎ、川は、放射線の熱を浴び水を求めて飛び込んだ人々であふれかえる。生き残った人の周りには、皮膚が剥がれ肉がむき出しの人々が「水をくれ」と叫び、目を向ける方向全てに死体が映る。死体の匂いは爆心地を包む。爆心地から一・四キロメートルの場所にある「安田女子高等学校」も訪問した。そこでは、私たちと同世代の学生や教職員が合計で三百二十八人が犠牲になっている。戦争をしている人たちだけでなく、罪のない人たちにも影響が及んでいる。私と同じくらいの人々が勉強もできず、軍備工場や建物疎開などに駆り出されていたということは、今のように授業を受けられることは当たり前ではないのだ。

私が広島を訪れた日は雲ひとつない青空で焼け焦げた原爆ドームだけがその日の記憶を否応なく紡いでいた。

私がこれからできることはなんだろうか。平和は大切だと思っているのに実現しないのはなぜだろうか。やらなければならぬこと、考えなくてはならないことが山ほど残っている。私がこれから生きていく中で、平和への礎となるものを築いて行かなければならないと思う。訪問先の安田女子高等学校からいただいた被爆樹木である桜が、かぶと塚公園に植樹されている。今の気持ちを忘れないためにも足を運び、あの日感じた思いを風化させないようにしようと思う。

ヒロシマ原爆く核兵器廃絶にむけてく

豊岡中学校 池島 那奈

一九四五年八月六日午前八時十五分ヒロシマに原爆が投下されました。七十八年後二〇二三年八月六日午前八時十五分私は被爆地ヒロシマで黙祷を捧げました。

八月五日ヒロシマに着き安田女子高等学校に行き、被爆桜について生徒会の方にお話を聞きました。被爆桜は爆心地側へ傾きながら強く成長していました。平和について考え理解を広めたいという生徒の願いから苗木を届ける活動もしていました。また安田女子高等学校では生徒三百十五名、職員十三名が犠牲となりました。慰霊碑に千羽鶴を捧げ黙祷をし、被爆者を悼みました。その後の平和記念公園では案内ボランティアの方のお話を聞きました。原爆ドームは教科書などでも見ていましたが、実際に見ると、核兵器の恐ろしさや原爆が残したヒロシマへの影響を物語っていました。ボランティアの方が私たちにおねがいはしたことは核兵器廃絶、平和に向けてたくさんの人に伝えてほしいということでした。被爆地に行って感じたことや平和とは何か、核兵器の怖さを多くの人に伝えたいと思いました。資料館では放射線によって起きた被害、犠牲者の魂の叫び、被害者の遺品、ヒロシマに落とされた核兵器リトルボーイのつくり、被爆直後のヒロシマの様子、苦しんでいる被爆者、被爆死した人の資料などがありました。遺品はビリビリに破れており、被爆者は相当苦しみ死んでいったのが分かりました。原爆投下で前の日まで明日

死ぬなど考えてなかったであろう十四万人の命をうばいました。自分がその場にいたら、考えるだけで恐ろしいし、同時に核兵器を保有してはいけない、保有している国があつてはいけないと思いました。平和記念式典では平和への誓いで「私たちにもできることがあります。」という言葉がありました。平和な世界になるために身近な平和を繋ぎ、平和な未来をつくりたいです。

広島の記事

磐田東中学校 佐藤 粹姫

私は、二日間広島に派遣していただき学んだことは二つあります。

一つ目は、被爆桜についてです。安田女子高等学校を訪問させていただいたときに被爆桜についてのお話を聞きました。被爆桜とは爆心地から約二キロメートル以内に位置し、投爆前から生きていて被爆しても今だに生きている桜のことだそうです。桜以外の木は被爆樹木といえます。被爆桜には、後遺症のようなもので爆心地に向かって斜めに生えていました。私はこれを不思議に思いました。なぜなら、私は爆風によって爆心地から逆の方向に向かって生えると思っていたからです。被爆桜を失わない為に少し枝を切って苗を作る植樹も行われていました。全国のいろいろな場所に植樹されています

が、その一つにかぶと塚公園にあることを知ったので一回は足を運んで見てみたいです。

二つ目は、原爆の被害の恐ろしさについてです。広島平和記念資料館にはたくさんの恐ろしい写真や絵、当時のものが展示されていました。ものすごい熱によって肌は焼けただけ皮膚はボロ切れのように垂れ下がりは流れ落ちる。八時十五分で止まった時計や当時の学生が着ていた制服は黒く焦げていました。私はこれらを見て当時の情景や様子はわかりましたが、被爆された方々の痛みや苦しみは想像ができませんでした。そして、戦争は二度と繰り返してはいけないことだと強く思いました。

私は、今回の貴重な経験を活かせるよう少しでも多くの人に原爆のことを知ってもらうために学んだことを伝えていきたいです。また、忘れないために自分でも調べたりして興味を深めていきたいです。

広島平和記念式典に参加して

磐田北小学校 小泉 結志

ぼくは、今回広島平和記念式典小中学生派遣事業を通してたくさんのことを学びました。中でもぼくが一番心に残っていることは、原爆資料館で見た、展示品です。

七十八年まえ広島は草木も生えない土地となり十四万人も

の人がなくなりました。原爆資料館では、その時の写真などが展示されていました。八時十五分で止まった時計、人かげのうつった石段、さらに被爆から七年後に発見された骨など、とても恐ろしい物ばかりでした。

また安田女子高校では、原爆投下後わずか百六十本になった「被爆樹木」について教えていただきました。被爆樹木は、原爆の爆風や放射線により、木の成長が害されていました。そして最後に広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に出席し平和の大切さが、改めてわかりました。

ぼくは、全体を通して原爆はとても恐ろしく使われてはいけない物だとわかりました。なぜなら、原爆は一つしゅんでたくさんの方の命をうばってしまうからです。世界では戦争や争いがたくさんおこっています。原爆を戦争がなくなれば原爆も使われなくなると思います。

そして身近なことでも戦争をなくすことはできると思いました。たとえば、人のことを考えて行動したり、おもいやりをもって人と接することなどです。ぼくはこれから、戦争をなくすために、人のわるいところではなく良いことを言うことをしたいと思います。また、まだこの原爆の恐ろしさを感じない人に、原爆について教えていきたいと思っています。

「平和」ってどんなこと

磐田中部小学校 荒木 稀識

皆さんは「平和」と聞き、何を考えますか。ぼくは広島で様々な体験を通して、二つのことが心に残りました。

一つ目は、原爆の恐ろしさです。広島平和記念資料館には、原爆の恐ろしさがわかる写真がありました。原爆が落とされた地域は建物も緑もほぼ失くなりました。特に印象に残っているのは、子供が働いている写真です。両親を失い、自分で働かないとご飯も買えずに死んでしまう子供。もし自分だったら恐ろしさと悲しさと空腹で頼る人もいなくて、一人で生きていけるか、と考えてとても悲しくなりました。今ぼくが送っている生活はとても幸せなものだと感じました。

二つ目は、広島平和記念式典で、同年の子が発表した言葉です。平和について、「自分たちにもできることがある。」と言っていました。この言葉を聞いて、自分にも何ができるか考えてみました。ぼくは妹とよくけんかします。けんかをするとうちは怒って泣き、ぼくも怒ったり嫌な気持ちになったりします。そして、周りにいる家族も、決していい気持ちにはなりません。それも小さな戦争かなと思いました。広島で平和を学んだことで妹と会話をするときに傷つけないように考えて発言することが意識できるようになりました。学校でも相手の気持ちを考えて言葉を伝えていきたいです。

原爆で、人の命、建物、緑、全てのものが失われました。さらに普通の生活ができるようになるまでに、とても長い年

月がかかることも分かりました。皆さんにも「平和」について考えたり、友達や家族と話し合ったりしてみたいと思います。そして平和な世界のために自分でできることを一緒に始めていきましょう。きっとぼくたちの小さな一歩の積み重ねの向こうに「平和」があるはずです。

安田女子高等学校より被爆桜を大切に

磐田西小学校 谷本 優心

ぼくは、広島平和記念式典小中学生派遣事業に参加させていただいた中で、安田女子高等学校（以下…安田）で被爆桜を見たことが特に印象に残った。

安田は、安田リョウ先生が「女性にも教育を」と夫・五一先生とつくった学校だ。昭和二十年八月六日原子爆弾により、生徒と先生、合わせて三百二十八名のとうとい命がうばわれた。原子爆弾で夫も亡くなり、リョウ先生は、学校再建を無理だと思うが、生徒が学校が無くなり、悲しんでいたのを見て、四ヶ月で再建した。原子爆弾投下直後の大変な時期に学校を再建・再開することは決して簡単なことではない。リョウ先生の生徒を思う強い気持ちを感じた。現在、いいひがあり、生徒が毎日礼をしていると聞き、おどろいた。

安田には被爆桜がある。被爆した木は原子爆弾を浴びた側の成長がおくれ、かたむくが安田の桜は虫に食べられた幹を

けずったためかたむいている。平成十八年苗木を全国に送るプロジェクトが始まったが、親木への負担も考え、現在は中止だ。戦後七十五年は草木も生えないといわれた広島でこのようなプロジェクトが行われていたこと、安田の生徒の「桜から生きる喜びや希望を感じる。」という言葉や命を未来につないでいこうとする姿勢に心をうたれた。寿命が来てかれてしまう被爆桜がある中で、ぼくは、安田の桜を見たりさわったりして、生命の強さを感じ、これからもこの桜のことを世界中に発信し、大切に守ってほしいと思った。

ぼくは、この事業に参加させていただき、七十八年前に広島で起きたことを知ることができた。平和に見える現在でも世界では核戦争の可能性もある。今回教えていただいたことを忘れず、平和のためにできることを考え、行動していきたい。本当に有難うございました。

原ばく資料館をおとずれて

磐田南小学校 笠原 雅矢

ぼくが広島平和記念式典小中学生派けん団に立候補をした理由は、戦争について少ししか知らなかったので戦争のおそろしさを学び家族や友達に伝えたいと思ったからです。

ぼくが一番印象に残っていることは、原ばく資料館で見た当時の写真です。原ばくがおとされ、やけどをした人達が川

へ飛びこんでいる写真は見ていてとてもつらい気持ちになりました。

また、資料館には、人かげの石がありました。これは、広島市への原ばく投下でひばくした時に、建物の前ですわっていた人のかげのあとといわれています。この方は、そのまま骨も何ものこらずに亡くなってしまったそうです。このように戦争のおそろしさを肌で感じられる施設です。

平和記念式典では、もくとうをし平和の鐘の音を聞きました。ぼくはこの鐘の音を聞いて、二度と戦争を起こしてはいけなと改めて思いました。

この経験を通して、戦争のひさんさ、平和のとうとさを学びました。戦争の語り手が少なくなってきたので、自分達で過去を学び笑顔で過ごせる未来を創っていききたいです。

平和が続くように

東部小学校 山田 颯稀

ぼくは、広島へ行くまで、核兵器のことをあまり知りませんでした。

実際に、原爆ドームを目にしたぼくは、しようげきを受けました。「こんなに大きな建物を、骨組みがむき出しになるまで爆風でふき飛ばしてしまうなんてすごい威力だな。」と思い、言葉が出ませんでした。その景色は、今も頭からはなれませ

ん。自分が想像していたよりも、はるかにおそろしいものでした。

原爆資料館では、原爆投下の後に、放射線などをふくんで黒くそまつた雨をあびた人たちの写真や、題名が「たすけてあげられなくてごめんなさい」という、がれきにはさまりぬけなくなった男の子の写真を見ました。それらの写真から、核兵器のひさんさや、助けたいのに助けられない悲しみと苦しみを感じました。

次の日の朝、ぼくは、平和記念式典に出席しました。そこで、代表の小学生が平和へのちかいを述べました。その中で、「平和とは、みんなの笑顔のために、自分の力を使うこと」という言葉がありました。ぼくは、その言葉がとても心に残りました。平和を続けるために、差別やケンカをしないなど、自分たちにできることはたくさんあると思います。

ぼくは、この2日間で核兵器のおそろしさをたくさん学ぶことができました。そして、今でも原爆による後遺症で苦しんでいる人たちがいることも知りました。この先、世界中で核兵器が使われることのない、平和な未来がずっと続けばいいと思います。そのためには一人でも多くの人に核兵器のおそろしさを伝えていきたいです。

広島平和記念式典に参列して

大藤小学校 堀内 優月

広島に原爆が落とされてから七十八年が経ちました。僕は令和五年の平和記念式典に参列しました。訪れた広島街はビルが立ち並ぶにぎやかな所で、原爆の大きな被害を受けたとは思えない程発展していました。

七十八年前の八月六日月曜日、朝八時十五分、世界で初めて広島に原爆が投下されました。その日の朝は快晴で、投下の目標となった橋がよく見えたそうです。朝、一度出た空襲警報が解除されたばかりで、人々はほっと一息ついて一日を始めようとしていました。そんな状況に原爆は落とされたのです。

原爆が落とされた瞬間、目もくらむ光と共にものすごい爆風が押し寄せ、爆心地周辺の温度は三千から四千度にも達しました。

資料館には、被爆された方達の写真や絵が展示してありました。その中でも僕の心に残ったのは、両手を前に突き出し、皮膚が着物の袖のようにただれ、目があるのかも分からない程にまでなってしまった人の絵です。僕はこの絵を見てずっと見ていられない程胸が苦しくなりました。

そんな大きな被害をもたらした原爆の中でも生き残った木があります。その木は被爆桜といい、原爆の被害を受けても尚、元気に咲いている桜です。その木がある安田女子高校の方達は苗木を送る活動をしていて命の逞しさを知ってもらい

たいという思いで苗木を送っているそうです。これを知って僕は命の逞しさが苗木と共に世界に伝わっていくといいと思いました。

原爆は人類を滅ぼす可能性のある恐ろしい爆弾です。しかし、核兵器は今も世界中に存在します。二度と広島のような悲劇が起きないようにするためには僕達一人一人の取り組みが大切です。身近にある平和を考え周りを笑顔にする事が重要なのではないかと思いました。

ぼくが思う平和

向笠小学校 山下 遥也

八月六日の蒸し暑い日、全国から多くの人が平和記念式典に参列しました。その中の一人がぼくです。そこでは、内かく総理大臣や広島市長の話、子供代表のちかいを生の声で聞くことが出来、ぼくも平和について考えることができました。

まず、一人一人のやさしさについてです。けんかや言い争いは、やさしさがなくなってしまうのだと思います。一人一人が相手に対してやさしさを持つことで、平和なふんい氣が生まれると思います。「大じょうぶ」や「何か困っていない」と声をかけることもやさしさの一つです。だから、一人一人がそんなやさしさを持つことで争いがなくなり、戦争のない平和な世界に近づけるのだと思います。

つぎに、助け合いについてです。広島に行つたさい、中学生が「大じょうぶ、荷物持つてあげるよ。」と、小学生にやさしく声をかけていた場面に出会いました。このように、みんなが助け合つていくことで一つの平和が生まれる氣がします。また、自分が相手の氣持ちを読み取つて行動をすることも助け合いになるとぼくは思います。

今、世界を平和にするためには、一つでも多くのやさしさや助け合いが必要であり、求められてくるのだとぼくは改めて思いました。ぼくは少しでも早く世の中から戦争がなくなり、人々の笑顔、やさしさ、幸せ、助け合いなどがあふれ出る平和に満ちた世界を実現したいと強く思います。そのために、今回の経験で色々な人にぼくが感じ、思った平和についてを伝えこの世界を平和でうめつくしたいと思っています。

ぼくが広島で感じたこと、知ったこと

長野小学校 山田 洋輔

ぼくは、八月五、六日に広島に行き、そこで戦争について様々な資料を見たり、話を聞いたりしました。最初に行った安田女子高等学校で説明を受けた中で一番印象に残っているのは、被爆してもなお残っている木のことです。被爆した木は「被爆樹木」と呼ぶそうです。被爆樹木は広島市内だけでも百六十本近くあることにおどろきました。

次に、原爆資料館に行きました。そこで最初に目に入ってきたのが、「死の斑点が出た兵士」の写真です。死の斑点とは、死の直前出る赤紫、もしくは青紫色の斑点で、死後六時間から十時間後にはひふ全体が赤紫色になるそうです。あまりにもしよげき的だったため、ぼくは言葉が出なくなりました。原爆によつて、こんなにひどい病気になる、苦しんで死んでいくのは、どんなに辛いことだろうと思いました。

そして、この広島での二日間の中で、一番印象に残ったのは、原爆ドームです。原爆ドームは爆心地から百六メートルの所にあり、爆心地から二キロメートル以内でゆい一残った建物で、原爆のおそろしさを世界中の人に伝えたい、忘れてはいけないと感じた人々の思いで残されたそうです。ぼくはその話を聞き、心の中の何かが動かされたような気がしました。原爆ドームは平和の象徴としていつまでも残さなければいけないと感じました。

この広島での二日間で、ぼくは多くの貴重な体験をすることができました。そして、いつまでも平和は当たり前だとは思わずに、平和がどれほどとうとく、幸せなことだと忘れずに、戦争を無くすために自分は何ができるのかを、これからもずっと考えていきたいと思っています。

広島に行つて感じたこと

岩田小学校 星野 紬耶

ぼくが広島に行つて感じたことは、戦争がどれだけ悲惨なことだったのかということでした。今の広島は活気がある街ですが、七十八年前の八月六日、一発の原子爆弾によつて十四万人の人が亡くなり、なんとか生き延びた人も後遺症に苦しんでいます。

安田女子高等学校では、爆心地から二キロメートルのところにある被爆桜が爆心地の方へ傾いています。その桜が爆風に耐え、翌年からきれいな花を咲かせたということ、そしてその桜が七十年以上たった今でもきれいに咲いていることにぼくは感動しました。また、この学校に被爆して亡くなった人の慰霊碑があります。その中の一人である安田五一さんという人は、この高校を共に創った安田リョウさんの夫でした。五一さんの意思を受け継いだリョウさんが五一さんのために、もう一度学校を作ったと聞き、ぼくはリョウさんの原爆に負けない強い気持ちを感じました。

平和記念公園では、原爆ドームや戦没者名簿が入っている記念碑などを見て回りました。特に心に残ったのは、平和資料館です。ここには実際に被爆した当時着ていた服や負傷者の写真、燃えた三輪車の実物などがたくさん展示してあります。これを見ると戦争がどれだけ悲惨なことだったか、原子爆弾という核兵器がどれだけ恐ろしい物だったかを感じる事ができました。

平和記念式典で広島の小六年生が言った平和への誓いの中であった、「身近なところにもたくさん平和がある」「身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動する」という言葉がとても心に響きました。ぼくもその一人として行動していきたいと思います。

一日一日を平和に生きていくためにぼくも戦争の悲惨さ、命の尊さを家族に、友達に、そして世界に伝えていきたいと思います。

広島

田原小学校 木戸 孝優

ぼくは、広島について、授業で学習しただけで、あまり知らずに行きました。そして、ぼくは、ショックを受けました。

原爆資料館に行くと、原爆が投下される前と後で大きく変わった広島が展示されていました。一瞬で街が消えたことがこわかったです。また、川には、沢山の人が集まり、みんなが水を求めていました。かわもには、血だらけになった死体がかんでいました。とてもしよげきを受けました。

以前から磐田市と交流のある安田女子高等学校に行きました。そこには、爆心地から約二キロメートルの場所で被爆したソメイヨシノがあります。とてもすごいと思いました。それは、ソメイヨシノのじゅ命は、六十年から八十年と言われ

ているからです。当時の桜はほとんどがかれてしまっているそうです。以前、磐田市に被爆桜が安田女子高等学校から送られたそうです。桜の花が咲いたらぜひ見に行きたいと思います。

平和記念式典に参加しました。同じ学年の子供代表の人が「自分達にもできることがあります。」と言っていたことが心に残りました。そして、「身近にある平和をつないでいくために、誰もが平和だと思える未来をつくっていきます。」と言っていた事に共感しました。ぼくも、自分ができる事を自分の言葉や行動で伝えていきたいと思いました。

広島に行き感じた事

富士見小学校 村田 晴太朗

今年の夏、私は太平洋戦争のひ害とそれによる原爆についてくわしく知るために広島へ行きました。

原爆が落とされた当初、この先何十年も草木もはえないと言われていました。しかし、それまでの日常を取りもどそうと、三日後には路面電車が通ったそうです。生きて広島に残された人たちの努力によって復興をとげ、さらに中国地方最大の都市になりました。

安田女子高等学校では、爆心地から一キロはなれた場所でひ爆した桜を見ました。その桜の品種はじゅ命がだいたい八

十年といわれていますが、そのひ爆した桜は八十年をこえてもすっかりと根をはり生きていました。ひ爆桜はとても貴重で、広島に五本しかないそうです。

平和記念館では、おくさんを原爆によってなくし、一人でも子どもを養っている男性を写した写真や、原爆で視力を失い、一日でも長く生きるために必死で、人の集まる場所へ来て食料をもらっているお年寄りの写真などの資料が展示されました。展示されている写真の中には、一九五〇年代の写真もあり、五年以上苦しんでいる人がいたという事実を知り、胸が痛くなりました。

なぜ日本に生まれたというだけで、原爆という実験によって命を失わなければならなかったのでしょうか。世界にはまだに一万発以上の核兵器があり、今まさに核のきょういが再び私たちにせまっています。

今、私たちに求められているのは、戦争のみならず過去の過ちについて責め立てるのではなく、過去から学び、未来へ活かしていくことではないのでしょうか。

わたしたちにできること

福田小学校 山内 美宙

私は戦争を知らない。平和について考えたこともない。平和が普通だから。

広島研修に参加させてもらい、自分が毎日どれだけ幸せか、どれだけ無知だったか、言葉にならなかった。たった一発の爆弾により一瞬にして広島街は破壊され、悲しみで埋め尽くされました。熱線で焼かれ、瞬時に失われた命、誰からも看取られず、やけどや原爆病で苦しみながら失われていった命、七十八年たった今も苦しんでいる人たちがいる。

最初に行った安田女子高等学校では、力強く芽吹いている被爆桜を見たとき、胸が熱くなるのを感じました。七十年は草木は生えないだろうといわれた広島なのに、原爆にも負けず花を咲かせる。爆風によって斜めになっても力強く生きています。そんな被爆桜に希望を感じました。

原爆資料館では、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料は私の想像をはるかに超えるものでした。

平和とは、差別せず、違いを認め合うこと、悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。身近なところにもたくさん平和があります。と始まった平和式典での平和への誓い。心臓がドキドキしているのがわかりました。

私は、平和が普通だと思っていた。でも、戦争で悲しんでいる人、苦しんでいる人がある。そんな人を作ってはいけません。誰もが、笑顔でいなければいけない。誰もが、幸せでいなければならない。そのために、一回全員で、平和について考えなければならない。

思い出の広島

豊浜小学校 伊藤 紗奈

私は式典に参加する前は、毎日が不安で正直行きたくない気持ちが強かったです。でもやさしい友達に会えたことや学校では教わらない事を広島に行って戦争のおそろしさや平和の大切さを知る事が出来たので参加できてよかったです。

広島の原爆によって死者が十四万人、負しよう者約七万九千人の数がいて、投下当時の人口に対する被災率約六十三パーセントあり、建物などの被害は広島市内の九割がかい滅的（被害が極めて激しい状況）だった事におそろしさを感じます。原爆が落とされた一九四五年八月六日のことを忘れないようにします。

原爆くの子の像も見に行きました。佐々木禎子さんは二才で被ばくして中学一年生の時に白血病で亡くなりました。禎子さんは元気になるためにつるを千羽以上おったそうです。原爆くで助かった人も禎子さんと同じように被ばくで苦しんだ人や亡くなった人もいると聞きました。たくさんの人に被ばくの苦しみや戦争の残こくさを知ってもらいたいです。

安田高校で七十八年前から生き残った被ばく桜にもふれることができました。被ばく桜は被ばくの光が当たったところだけが成長がおそくかたむいていました。被ばくを受けてもさき続けている桜はみんなに生きる希望をあたえてくれたと思います。

資料館で見た絵や写真、実際に被害にあった焼きつけられ

てボロボロになった洋服があって見ていてどれだけ残こくだったのか伝わってきてこわくなりました。戦争が無ければ自分の夢がかなったり、家族や友達との思い出もたくさん作れたし人生が明るくなったと思います。

平和についてお母さんと話してみました。ケンカをしないために、みんなが思いやりを持って助け合いはげまし合い仲良くすることが大切だと思います。

ヒロシマ

竜洋東小学校 清水 音花

私は広島に来た時に色々なことを感じました。広島のを見た時は緑豊かで笑顔があふれている街だなと感じました。なので、七十八年前の八月六日に原爆が落とされたことは信じられませんでした。でも原爆ドームや資料館を見たときに本当に起きた出来事なんだなと思いました。

私が広島で感じた中でも心に残ったことは三つあります。一つ目は、「原爆ドーム」です。私は教科書の写真で見たことがありますが、見ただけでも原爆のおそろしさが分かるほど迫力がすごかったです。

二つ目は、「原爆資料館」です。私は写真に写されている人や建物を見て言葉が出なくなりました。たった一発の爆弾で多くの人が苦しんでいると感じた時、手足がふるえ、涙が出

そうでした。

最後に三つ目は、平和記念式典での子ども代表の人たちの言葉です。その中でも特に「私たちにもできることがあります。」という言葉が記憶に残りました。七十八年たった今でも私たちに出来ることがあるということに感激しました。

このように私は広島で原爆がどれだけおそろしいのか、そして命というのはどれだけ尊いものなのかを学びました。でも今世界ではロシアとウクライナの戦争が続いています。私は何故土地をうばったりして多くの人を苦しめるのが全部分かりません。また広島で起こったことをくり返したくないです。なので、私は広島で学んだことを家族・友人・学校のみんなに伝えたいです。

平和な世界を強く願って

竜洋西小学校 宮本 楓花

「平和記念公園の地面は盛り土がしてあり、その下にはまだ骨が残っているはずだから、通る時にはそのことを思いつ通ってほしい。」これは私が広島に行つて一番心に残った言葉です。原爆ドームでお話をしてくれたガイドさんが以前、被爆者の方から聞いた言葉だそうです。私はこの言葉を聞いた時、写真で見た原爆でたくさんの人や建物が倒れ、まるでこの世ではないような風景を思い出しました。今の平和記念公

園は道や草木が整備されていて、当時の面影はあまり感じられなかったけれど、この場所で七十八年前に被爆した人達が本当にいたんだと実感しました。そして、当時の苦しみや叫ぶ人達を想像して、辛かっただろうなと思う、私も辛くなりました。

広島平和記念資料館では、たくさんさんの資料を見ました。広島に行く前に読んだ本には載っていなかった写真もたくさんあり、原爆の悲惨さがあるのままだ伝わってきました。

私はその中でも被爆した方の身につけていたものが印象に残りました。財布やメガネ、帽子、着ていた服はどれもボロボロで、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。遺品はこうして残っていても、これらの持ち主は亡くなってしまったんだと思い、何の罪もなく被爆させられた人達の苦しさを想像して心が痛くなりました。

磐田市に帰って来てから、広島で訪れた安田女子高校の被爆桜の接ぎ木を見てみたとかぶと塚公園に行きました。想像していたよりもしっかりと大きな木になっていて、広島ของ想いがこの磐田市でも受けつがれて育っているんだと、うれしくなりました。

私はこの広島派遣で原爆の恐ろしさ、平和の大切さを学びました。実際に訪れたからこそしっかりと向き合い、考えることができた貴重な二日間でした。これからもこの経験を胸に平和について考えていきたいと思っています。

「伝える」

竜洋北小学校 柳澤 采歩

「ドーン」と一発の爆弾で十四万人もの広島の人達が亡くなりました。爆弾を落とした国は、よその国だから、自分の家族や友達じゃないから、早く戦争を終わらせるためだからと、何とも思わなかったのかな。もし、私の家族が広島にいたなら、今、私はここにいなかったでしょう。

広島のア田女子高等学校では、被爆桜のつぎ木のやり方を教えてもらい、その被爆桜にさわってきました。被爆したのに、翌年には花が咲いたそうです。私は、その生命力に強さを感じました。

資料館では、たれ下がる目の玉を手でうけとめている絵や自分についた火を消すために川に飛びこんで死んでしまった人達の絵を見て、原爆の恐ろしさを知りました

原爆の子の像に学校みんなが折ってくれた千羽づるをかける時に、全国から集まった千羽づるがたくさんあって、人々の平和への思いに「わぁー」となりました。

式典では、平和へのちかひの小学生の言葉に、悪口を言わないこと、相手の気持ちを考えること、みんなが笑顔になれることなど、私達にも出来る身近な平和があることを知り、学校みんなに伝えようと思いました。

世界各国のえらい人達がたくさん参列していました。そのえらい人達が、自分達の国に帰って原爆の恐ろしさを伝えてくれると思います。そうやって、世界中の人々に伝わって

けば、戦争のない世の中に近づいていくと思います。

七十八年たった今でも、被爆した人や残された家族の人達は苦しみを抱えています。その苦しみは、これからも消えることなく生きていかなければなりません。戦争を知らない私達は、昔何があったのかを知り、伝えていかなければいけないと思いました。

広島の名

豊田南小学校 飯塚 優芽

今回の広島平和記念式典小中学生派遣事業を通して、私は大きく二つの事を学びました。

まず一つ目は、原爆のおそろしさです。広島平和記念資料館では、原爆により大火傷を負った人、包帯でぐるぐる巻きにされ、横たわる人の写真が展示されていました。さらに、服やかみの毛が焼け落ち、血だらけになりました。さらに、川へ向かう人の絵もありました。被爆者だけでなく経験していない私も、こわい、地獄だと思うほど、原爆はおそろしいと知りました。また、時がたっても消えない心身の傷や、放射線による病気を持つ人もいます。だから私は、時がたっても原爆を忘れてはいけないと思いました。

二つ目は、平和の大切さを伝えていかなければならないということです。先ほど書いたように、原爆によって多くの人

が亡くなりました。だから、平和を大切にしないといけません。原爆が落とされたあの日の八時十五分、広島の人々は一体何をしていたのでしょうか。家族と笑い合いながら朝食を食べたり、友達と仲良く学校へ行っていたかもしれない。そんな風に一日が始まろうとする時、一発の原爆で十四万人の命が失われました。そして今、核保有国があるという現状におびえる人が多くいます。だからこそ、私達が学んだことをもとに、平和の大切さを伝えていかなければと思います。

原爆が落ちる前の広島には、たくさんの人が住んでいましたが、たった一発の原爆で多くの人が亡くなりました。今回の平和記念式典に参加して七十八年前に確かにこの世にいて、ここで「生きていた」人がいたと感じ、今生きていて幸せだと思いました。今回の広島平和記念式典小中学生派遣事業を通して、原爆によつて、うばわれた夢や希望を、私達がつないでいかなければならないという事を忘れずに、平和について伝えたいと思います。

広島原爆のおそろしさ

豊田北部小学校 鈴木 愛梨

私は今回、広島へ行って、いろいろな人の話を聞いて、いろいろな物を見て、さわって、自分自身のはだでふだんは見れないものを、たくさん見て、感じました。二日にかけて、

いろいろな事を感じましたが、一番感じたのは原爆のおそろしさです。たった一発で、広島を平和をこわし、人々を絶望へとつきおとした原爆は、その時だけでなくその後も、ましてや、現在も人々を後いしように苦しめていることにおどろきました。特に、資料館で見た「死のはんてん」や、「ケロイド」などの、いつはつしようするか分からないというきょうふ心をずっと人々の心に残し、現在も後いしようとして、まだひがいは、残っているということを初めて知りました。

安田女子中学高等学校に行つて、話を聞いて、たくさん木がはえているうちの、百六十本しか生き残らなかったもののさらにその五本の一つである被爆桜を見て、原爆をたえぬいた桜の樹木の力強さを感じました。そして、原爆の爆発にたえただけでなく、安田女子中学高等学校の被爆桜の種類であるソメイヨシノの平均寿命である六十年〜八十年以上生きていることもおどろきました。見ただけで、木の力強さが伝わってきました。生徒会の人からのお話で、人々のおたがいを思いやる助け合いや協力の精神の強さを知りました。

特に、安田リョウさんのだんなさんが亡くなったり、校舎がこわれてしまっているなかで、再建を決断し、さらにがれきの中から、かけらを一つずつ探した事もおどろきました。

今回のきちような体験を通して、ふだんは絶対感じたりできないことをたくさん感じて、知ることができました。今回感じたいろいろなことを、心に残しながら、私生活や学校生活を送っていききたいです。そして、学校みんなへ、広島のことを伝えて、それだけでまんぞくせず、周りの人へ伝えて

いきたいです。

核兵器のない世界へ

青城小学校 鈴木 瀬菜

私は、今回、広島へ行きたくさんのことを学びました。

特に資料館で、げんばくは、生き残れた人も病気にかかることや大切な人を失ってしまったり、やけどをおってしまったりなど心と体に深いきずをおってしまうものだと知りました。

写真や絵、実際の衣服などを見ただけですべてもこわく目をそらしたかったけど、もう起きてしまったことなので目をそむけず、げんばくのおそろしさを伝えていかなければいけないと思いました。

平和記念式典では子ども代表の言葉で自分にできることは何か考えました。友達と仲良くすることや、相手のちがいを理解してだれにでも公平にすること、みんなが笑顔になれるように自分から行動することなどふだんの生活で、できることを一つ一つ実行していきたいです。

安田女子高等学校では、ひばく桜を見ました。ひばくしてきずついても立派に生きて毎年きれいな桜をさかしていると聞きました。そのひばく桜のなえぎを作り、各地に送っていて、十四年間で七十七本送っていてすごいな、命ってすごいなと思いました。

今回、広島へ行き、安田女子高等学校、広島平和記念資料館、平和記念式典などに参加して、げんばくのおそろしさを、こわさ、そして今、平和に生きていることのうれしさ、尊さを知りました。このことを一人でも多くの人に伝え、核兵器のない世界を作っていきたいです。

私が感じたこと

豊田東小学校 平野 心葉

私は広島に行くことを決めて、資料を見たとき、かく兵器がない世界が平和だと思っていました。でも、広島に行って、みんなが笑顔で幸せを感じて過ごせることが平和だと思うようになりました。ひ爆桜は、原爆の力にも負けずに、力強く、堂々と生きていて、ひ爆された方に似ていると考えました。資料館に展示されている絵や写真を見ているだけで、つらく、苦しい気持ちになりました。思わず目をそらしてしまうものもありました。その中でも特に心に残ったものは、一人の子供がかた目をやけどし、こつちを見ている写真です。その写真から「助けて、助けて」と聞こえてくる気がしました。今はもう生きていないけど、トルーマン大統領やその関係者、そして、プーチン大統領に見てほしいです。式典に参加して、八時十五分にもくとうしたとき、七十八年前の今、原爆が落とされたと考えると、不思議な気持ちになりました。原爆ド

ームから少しはなれたところに行くと、そこもひ害を受けたはずなのに、当時の様子が想像できないほど豊かで、静岡県にいるようでした。それは、みんなが一生けん命、復興に取り組んだからだと考えました。スーパーや駅の洗面所などで「いつもきれいに使ってくれてありがとう」と書いてはつてあると、うれしくなつてきれいに使いたくなります。だから「かく兵器無くせ」「戦争やめろ」ではなく「みんなが大切に大切につないでくれた命」「みんなががんばってくれたから今がある」ということを忘れないで感謝し続けることが大事だと思います。原爆ドームは写真で見るとより力はあつて、資料館もこわかつたけど、他の学校の子と仲良くなれて楽しかつたです。グループの子がいたから、一人で広島に行くのも心強かつたです。すてきなグループの子と会えて良かつたです。これからも、周りの人と一人でも多く、笑い合つていきたいです。

広島派遣事業を通して私達にできる事

豊岡南小学校 杉原 湊歩

この二日間を通して「可能性を信じること」が大切だということを学びました。

「平和とはなんですか。」「身近なところにもたくさん平和があります。」「私たちにもできることがあります。」「これは、

「平和への誓い」で私と同じ六年生が話した言葉です。私はこの言葉に深く共感しました。広島で、「新しい世界を作るのは君たちだ。」と、話をしてもらいました。皆が平和でいる事が新しい世界？核兵器がない世界にすること？もちろんそうだと思いますが、一番は「信じること」だと思います。自分の可能性を信じて、周りの人、自分が笑顔になれるよう努力することが平和だと思います。

原爆投下後、広島の人々は、「自ら生活を再建させつつ、まちの復興に立ち上がりました。広島市の復興の道のは困難でしたが、――中略――都市基盤は徐々に整備され、現在は人口百万人以上を超える都市までに発展しました。」あれから七十八年。七十五年間は草木も生えぬ、と言われていた広島を見た私は、その豊かさに驚きました。これは、広島の人々が自分達の「可能性」を信じたからだと思います。私達が今出来る事は、無限にある可能性を信じて、まず「身近な平和」を増やすことです。身近な平和とは、けんかをせず、みんな仲良く笑顔でいることです。そんな小さな平和を増やしていくことで、大きな平和になり誰もが笑顔で平和だと思える世界になるのです。そんな世界を、私たちが作っていくのです。

最後になりましたが、広島派遣事業に参加させていただき本当にありがとうございました。広島のことを知ったり平和について考えるキッカケをくれただけでなく、私にとって大切な経験・思い出となりました。これからは身近な平和を増やし、周りの人を笑顔にし、広島と平和のことを伝えていきたいです。

広島平和記念式典に参加して

豊岡北小学校 大場 麻央

核兵器の恐ろしさ、そして平和の大切さを私は広島平和記念式典で学びました。特に、一番私が心に残ったのは、広島原爆資料館と平和への誓いです。

広島原爆資料館では穏やかな広島市内から一変、建物は崩れ、人は肌が焼けこげて垂れ下がっており、水をくれと言っている広島市内の人々の様子からその時の現実を知りました。その時の写真や亡くなった方の洋服を見るたび足が震え、ガクガクしていたのが自分でも分かりました。写真を撮るときも一回のカメラのシャッターを押すのに時間がかかりました。

そして式典での子供代表の平和への誓いがとても印象的でした。私と同じ六年生の言葉です。「私たちにも出来ることがある。」その言葉が心に響きました。相手の気持ちを考えたり、友達のよいところを見つれたりするなど、少しのことでみんなが笑顔になれること、それが平和へつながっていく第一歩であることに気付かされました。

広島平和記念式典の参加により私自身、多くの学びを得ることができ、平和についてとても深く考えることが出来ました。原爆死没者慰霊碑に書いてあったのが「過ちは繰り返しませぬから」という言葉です。生き残れても家族を失った人や後遺症が残って今も苦しんでいる人がいる。それが今の現状だということも知りました。世界中の人達がどれだけ願っても過去には戻れません。ですが未来は変えられます。原爆、

いじめ、差別のない平和な世界にしていくにもまずは原爆の恐ろしさを知ることや、命や平和について考えていくことが必要だと思います。みんなが笑顔でいられる世界になれるよう、今回の派遣事業で学んだことを活かして伝えていきたいです。

令和5年度 広島平和記念式典小中学生派遣事業感想文

令和5年 10 月吉日発行

発行 磐 田 市

静岡県磐田市国府台3-1
磐田市総務部総務課 総務グループ
TEL 0538-37-4803